



森ボラ 通信

NPO 法人

第 263 号 2024 年 4 月 20 日発行
北海道森林ボランティア協会

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸 1 条 1 丁目 8-8 ラルズ生活研究センター

TEL (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

■ 寄稿

◆ 「じょうてつの森づくりプロジェクト」2年目を振り返って

株式会社じょうてつ 兼子しおり

2022 年 5 月からスタートしました「じょうてつの森づくりプロジェクト」、早いもので 2 年目が終わりました。北海道森林ボランティア協会の皆さまには毎回丁寧にご指導いただき、また温かく当社の活動メンバーを迎えて下さり、改めて深く感謝申し上げます。

最初は「どうやって森に入るの?」「この道具はどう使うの?」「でかいミミズだ!」などと、初めての事に戸惑っていた私たちですが、2 年目ともなると、森に入る心得を少し理解してきたメンバーもちらほら……。継続して取り組む事の意味はそこにあり、再び訪れた森の中でまた学びが増える事がとてもありがたく感じた 2 年目でした。

活動を一瞬で終わらせずに続けていく事ほど難しい事ありません。森ボラさんが 22 年間、澄川都市環境林を守っていらっしやる事に感服致します。継続して取り組む事に挑戦しているわが社ですが、自分達の手で植えた苗木たちを将来に渡り見届けていけたら、そして次世代にバトンを渡していったなら、こんな素晴らしい事はありません。30 年後、50 年後、成長した樹に思いを馳せながら、そして森が豊に育つ事を願って、汗を流して活動しています。

さて今年度は、1 年間温めていたプロジェクトを実行できました。1 年前の冬、じょうてつの森の間伐材を利用して、当社の応接室前に掲示するルームプレートを作成できないか清澤さんに相談させていただきました。自分達のオフィスのルームプレートを自らの手で制作できたら……。私たちの熱い思いを酌んで下さり、快く承諾して下さいました。

昨年 9 月、西野さんのご尽力で原版が完成、そこからは試行錯誤……。板の反りや文字をどのよう加工するかなど、何度もやり取りアドバイスをいただきました。今回学んだ事は、「木本来の味を楽しむ」という事。反ってしまうのも、字がいびつになってしまうのも木や人の個性、そして作る行程を楽しむ! 初めてバーニングペンに触るメンバーは、作業に没頭し、森の中の活動とは違った達成感がありました。

2024 年度は、ついに 3 期目の活動となります。まだじょうてつの森に訪れた事のないメンバーに参加してもらおう事、3 回目の植樹、そして、森ボラさんの活動をはじめ私たちの活動をもっとアピールしていきたいと考えています。引き続き、森ボラの皆さまにはご指導いただけますと幸いです。



2023 年度第 1 回活動：植栽地の下草刈りの様子 (6 月 21 日)



出来上がったルームプレート
右下に樹種を入れました



応接室の前に掲示
しています



じょうてつの森づくり
プロジェクトについて
の案内も作りました

◆「都市林業 (Urban Forestry) について

最近都市林業という言葉がネット上で聞かれるようになりました。特にアメリカに於いて Urban Forestry として議論されています。「都市林業とは、都市環境を改善する目的で、都市環境における単一の樹木と樹木の個体群の手入れと管理です。」と定義されています。森ボラは「澄川都市環境林」の手入れや野幌公園の台風被害林での植栽やら水質検査や森林教室を行っておりこの定義からすればまさに都市林業者です。(投稿・酒井)

■ 活動報告

◆第4回冬季セミナー報告

— 会員例会: 活動計画 水質調査報告 講演: (株)大西林業 代表取締役大西潤二氏 —

3月9日北農健保会館において第4回冬季セミナーが開催され、会員20名が参加しました。前半の会員例会では松藤さんより来年度の活動計画と新しい活動体制について説明があり、次いで本郷さんより右精進川の水質調査に関する報告がありました。6年に亘る活動の歩み、調査項目・手法、調査結果等について説明があり、実に細かく地道な作業と分析を積み重ねる活動だと知りちょっと驚きでした。ただ一番印象に残ったのは最後のお話、プライベートで行かれた「アイスランド・オーロラの旅」でしょうか(笑)。



本郷さんの水質調査報告

後半の講演会は大西林業代表の大西潤二氏より「北海道における自伐型林業の特徴」のテーマで、ご自身の会社や推進協議会での取組や多くの事例を紹介して頂きました。自伐型林業とは「森林資源を持続的に活用しながら環境保全と経済性が両立する林業」のことで、初期投資や活動資金の負担が少ないため個人や少規模グループで山林を購入・借受して開業、兼業や副業で施業に参加、など様々な規模・スタイルの林業家が就業している。また、国や自治体の交付金を活用できる場合もあり、より参入しやすい環境が整ってきているとのことでした。具体的な特徴としては、伐採は基本的に手入れと収穫を兼ねた間伐・択伐、軽度な間伐を繰り返して長伐期化、山や残存木を傷めない小さい機械で施業、小規模作業道・網を整備、伐材を一般材・薪炭材・クラフト材など多様な資源として生産、等々。質疑応答では、天然更新、間伐の条件、エゾシカ対策など森ボラでも良く話題となる話で盛り上がり予定時間をオーバーして終了。自伐型森ボラ！？に思いを馳せながら今年度最後のセミナーを終えました。(文・山口)



大西潤二氏の講演

◆澄川第二樹木園毎木調査

2024年3月末に澄川第二樹木園にて、5年毎調査の3回目を行った。第二樹木園は澄川環境林のほぼ中央の東側に位置し平坦な地形をして、間伐などの手入れはしていない。当日は快晴の残雪の中、スノーシューを履いて50m四方の範囲の樹木の胸高周長を計測した。樹木には前回設置した直径2cm程の番号付きのアルミプレートが設置されている。5年間の樹木の生長で釘が抜けて紛失したプレートは20%程でした。2013、2018、2024年に調査をした、樹種毎の本数、平均直径、材積計を下表に示す。キタコブシ、サクラ、ホオノキの成長が著しく、エンジュ、シナノキ、ミズナラなどが堅調に成長している。カラマツ、クリは成長が止まったと思われる。また、ハルニレは2013年には4本確認されたが現在は見当たらず、シカによる食害の影響と思われる。

2013、2018、2023年 澄川第二樹木園 毎木調査総集計

調査面積50m×50m=2,500㎡=0.25ha

NPO北海道森林ボランティア協会

20240404

番号	樹種	調査:2013年2月26日			調査:2018年11月25日				調査:2023年3月30日				備考
		本数	平均直径(cm) A	材積計(㎡)	本数	平均直径(cm) B	材積計(㎡)	平均直径の増加率 B/A	本数	平均直径(cm) C	材積計(㎡)	平均直径の増加率 C/A	
1	アズキナシ	1	14.0	0.086	1	16.5	0.129	1.18	1	18.3	0.167	1.31	
2	イタヤ	34	9.9	2.450	33	12.2	3.741	1.23	35	12.3	4.352	1.25	
3	エンジュ	6	8.7	0.265	7	10.2	0.390	1.17	7	11.1	0.481	1.28	
4	カラマツ	4	23.8	1.290	4	25.4	1.505	1.07	4	25.7	1.537	1.08	
5	キタコブシ	6	12.7	0.626	8	16.3	1.323	1.28	8	17.5	1.564	1.38	
6	キハダ				1	22.6	0.280		1	24.5	0.341	1.08	増加率はC/B
7	クリ	14	22.1	4.232	14	24.8	5.658	1.12	15	24.8	6.281	1.12	
8	サクラ	34	12.9	3.670	32	14.9	4.704	1.16	31	16.3	5.395	1.26	
9	シナノキ	9	13.6	1.172	5	15.4	0.846	1.14	5	16.2	0.915	1.19	
10	シラカンバ	12	17.8	2.099	10	19.6	2.210	1.10	10	20.8	2.553	1.17	
11	ハルニレ	4	7.0	0.077	0			0.00	0			0.00	
12	ホオノキ	6	22.8	1.867	5	27.7	2.560	1.21	5	29.9	3.082	1.31	
13	ミズキ	1	6.0	0.010	1	7.6	0.019	1.27	1	8.4	0.024	1.40	
14	ミズナラ	81	19.3	21.012	82	21.0	26.584	1.09	80	22.7	31.054	1.18	
計(直径は平均)		212	16.0	38.856	203	18.3	49.949	1.14	203	19.1	57.746	1.19	
1ha当たり換算		848		155.4	812		199.8		812		231.0		

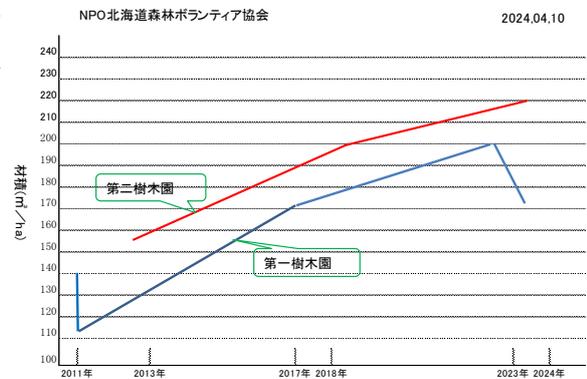
(材積算出は北海道の広葉樹二次林の調査から「固定調査地での材積成長量の一算出法」(浅井達弘氏)により提案された式を使用)

澄川樹木園 材積の経年変化

次に同じ時期に調査を行った第一樹木園との材積の比較をグラフに示す。第一樹木園は2011年と2023年にそれぞれ材積で30%程度の間伐を行った。材積の増加はやや鈍化してきたが、それぞれ順調に成長していると考えられる。

今後も第一樹木園は10年ごとに間伐を行う予定です。それぞれの樹木園がどのように成長していくのか、5年毎の調査を継続していきたいと思う。会員皆様のご協力をお願いします。

(文・樫樺)



新入会員の紹介～よろしくお願ひします！ 二郷 史絵さん(49) まさひろ 雅広君(13)

初めての親子での入会となりました。お母さんの史絵さんは森や自然が大好きで昨年7月のボラ通254号に「息子とアァンの森へ」の題で寄稿していただきました。雅広君は昨年度まで親子森林教室で抜きん出た存在で協会員顔負けの活動をしてくれました。目標は「早くチェーンソーを使えるようになりたい」との事で頼もしい限りです。協会の平均年齢を一気に下げた期待の13歳です！皆さんの孫以上に大切に見守ってください。

■ 澄川の自然 56

ケヤマハンノキ(カバノキ科)

3月27日活動日に見たケヤマハンノキの印象です。まだ辺り一面真白な雪原の中、この木だけ生き生きしています。全体が褐色になり樹形が大きく枝をのびのびと張り、その枝先に小人を吊り下げて今にも踊り出しそうな躍動感が感じられました。春一番に雄花を下垂させ、その少し上に雌花が付いて華やかです。

カバノキ科の仲間はシラカンバ、ハンノキ、サワシバ、アサダ、ツノハシバミなど、みんな枝先に穂を下垂させます。ケヤマハンノキは今頃もう花粉を散らしているかも知れません。 写真/三橋・文/西野(澄)



■今月の幹事会

出席者(4/10):大窪・荻田・檀棒・加藤・清澤・松藤・矢野・西野(澄)・平・早坂・老田・丸尾

1. 2024年5月、6月活動スケジュール(5月幹事会5/8(水)):了承
2. 2023年度会計報告:了承
3. 2024年度予算案:了承
4. 2024年度森林・山林多面交付金事業採択結果:3か所、面積計13.4ha。了承
5. 第22回定期総会議題:5月13日(月)。了承
6. 2024年度第1回親子森林教室:4/21開校式、早春の森歩き、植菌。了承
7. 年会費・入会金の改定:前年度コモド会員および親子森林教室卒業者は入会金免除。了承
8. 現場報告
 - ・澄川整理伐状況:了承
 - ・第二樹木園、標準地調査結果:澄川環境林1ha当たり平均本数は1066本、材積は234 m³。
9. その他
 - ・業務の引継ぎ(清澤さん):それぞれが分担。長い間ありがとうございました。
 - ・森ボラ新ホームページ進捗報告:3月の訪問数1,514件。了承
 - ・選木基準:株立の間伐に際し、材積30%を除外(2本立の場合、1本を整理することが可能)
 - ・北海道森と緑の会緑の募金:事務局で取りまとめ寄付を行う。
 - ・2024年度助成金中間報告:了承
 - ・セブンイレブン助成購入品:パソコン、カメラ、プリンターなど。了承

■活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
3月18日(月)	澄川	-	荒天のため活動中止
3月21日(木)	澄川	11	樹液採取(最終)、E-8整理伐対象木の選木
3月24日(日)	澄川	10	E-8選木・整理伐(手ノコ)
3月27日(水)	澄川	15	E-8整理伐(手ノコ)、第二樹木園毎木調査
3月30日(土)	澄川	12	E-8整理伐(手ノコ)、第二樹木園毎木調査
4月2日(火)	澄川	15	E-6標準地調査、E-8整理伐・集材
4月5日(金)	澄川	15	E-8整理伐・集材、C-5標準地調査
4月7日(日)	澄川	14	北地区右精進川左岸踏査、蔓きり、倒木処理
4月10日(水)	豊平区民センター3階 第3会議室	12	幹事会
4月13日(土)	澄川	10	E-8整理伐・集材、親子森林教室準備